

紅葉の盛り、日差しの暖かさが恋しく感じられる季節となりました。

本日ここに、東京都立大森高等学校 全日制課程 創立80周年、定時制課程 創立75周年を記念し、式典と記念行事を挙げるにあたり、校長として御挨拶申し上げます。

本日は、御多用の中、三十名を越す多くの御来賓に御臨席賜りました。東京都議会議員の皆様、本校卒業生である大田区長様、PTA会長様、同窓会会長様、また、歴代校長の皆様、近隣都立高等学校長の皆様、大田区立中学校長の皆様、本校学校運営連絡協議会委員、旧職員、PTA、ポプラ会、同窓会の皆様など、高いところからではありますが、謹んで御礼申し上げます。

まず、八十年の本校の推移を、かいつまんで御紹介申し上げます。本校は、昭和18年、東京府立第二十三中学校として開校し、男子生徒100名を迎えてその歩みを始めました。当時はまだ独立した校舎がなく、千代田区永田町にあった府立第一中学校に間借りしての始まりです。同年、東京府から東京都に変わるのに伴い、校名が東京都立大森中学校と変わりました。昭和21年、当時の東京都大森区入新井町にあった区立入新井第五区民学校校舎をお借りして大田区に移り、昭和22年、ようやく、現在の場所に落成した木造2棟の新校舎に移転することができました。この場所は、もとは現在の一橋高等学校の流れにつながる、蒲田工業学校の跡地だったそうです。

5年後の昭和23年、学制改革により東京都立新制大森高等学校と改称し、ここで定時制課程一学級50名がおかれまして。続く昭和25年、校名から新制の二文字が取れ、東京都立大森高等学校として、男女共学が実施されました。全日制は男子200名、女子100名の入学規模でした。その後、高度経済成長期、ベビーブーム等、今の生徒達が日本史や政治経済で学習する昭和の時代を、普通科高等学校として脈々とその歴史をつないで参りました。昭和43年頃の定時制課程は16学級あったと沿革に残っており、まさに、ものづくりの大田区を支える存在であったことが偲ばれます。一方の全日制課程は、昭和5～60年代の24学級が、最大の生徒数を抱えていた頃でした。

続く平成、令和を経て、現在は、少子高齢化の時代となり、全定両課程を合わせて19学級、約420人程度の生徒が本校で学んでいます。今の学校施設は、平成26年、ちょうど70周年の頃に全面改修が終了しました。この当時は全日制の一つの学年が7クラスほどの規模でしたから、今となっては、広い施設を余裕をもって使うことができるだけでなく、教員が手厚く生徒に接することができる、大変恵まれた状態になっています。平成26年は、ほんの十年前、西暦でいうと2014年です。まだ記憶に新しいコロナ禍の数年も含め、この十年間の社会の変化は著しいものがあり、当然、学校もその只中にあります。本校は、この80周年を節目とし、これからの新しい時代に求められる普通科高等学校であるべく、不易流行の不易を守るだけでなく、様々な新たな挑戦をしながら、今後も歴史をつないでいかなければなりません。

さて、ここからは特に、在校生諸君によく聞いてほしい。大森高等学校の校訓は、「敬愛 誠実 努力」です。皆さんには、様々な機会にこのことを繰り返し伝えていきますから、もう

わかってるよ、と言いたいかも知れませんね。この校訓は、何十年も前の先輩方から、脈々と受け継がれてきた、人間として基本となる在り方を象徴する三つの言葉です。どうか、卒業後も、社会人になっても、子を持つ親になっても、ずっと心にとどめておいてほしい、折々に思い出して、自分の生き方を振り返ってほしい。それこそが、伝統をつなぐ意味なのではないでしょうか。

また、本校のスクールミッションには、「人々に愛され、社会に貢献できる人間になる」ということも掲げられています。社会は、年齢や考え方や性格や国籍など、様々な違いがある人々で成り立っています。グローバルズムとかボーダーレスとかいう表現を耳にすることもあるでしょう。違いを認めながら人と人が協力し合わなければならないこれからの時代を生きていくには、校訓に示された人間力が不可欠なのです。点数だけを気にするような浅い理解にとどまらず、基礎的な学力をしっかりと身に着け、行事や部活動、HRや委員会活動等々、今、本校で学んでいることのすべてが、社会に出ていく自分の血や肉となって、人間としての自分を支える力になっていくのだ、と受け止めてほしいと思います。学校を通して提供される、様々な機会に積極的に参加することや、時には先生方から厳しい指導を受けることも、皆さんがこれからの社会を支える大切な存在であるからこそ、です。有名になることや、お金持ちになることだけが人生の成功ではありません。何でもこなせるスーパーマンである必要もありません。得意なことを生かし、苦手なことは努力しながら、皆さん一人一人の、「人々に愛され、社会に貢献する」在り方を、視野を拓けて探し続けて欲しい。学校とは、そのためにあるのです。

そして、今日のこの行事が、私たちは、過去の多くの先輩方に支えられていること、これから後輩たちにつなぐ存在としてここにいることを意識し、自分が決して独りぼっちではない、かけがえのない存在として歴史の中に生きているのだ、ということを実感し、考える機会になることを校長として願っています。これからも、今までに増して、共に成長しながら、良き大森高校を作り続けていきたいと思います。

最後になりましたが、この本校創立80周年に際し、PTAからは体育館演台正面の校章レリーフの御寄贈を受け、祝い菓子もご用意いただきました。また、同窓会からは、生徒ホール掲示の横断幕や校門近くの懸垂幕を作成していただいただけでなく、在校生がデザインした学校キャラクター入り水筒を記念品として頂戴いたしました。日常の教育活動においても、様々な御協力をいただいております。ここに御披露するとともに、謹んで御礼申し上げます。

結びに、私たち生徒・教職員一同、今後も変わらずこの大森高等学校のバトンをつなぐことをここにお約束し、式辞といたします。

令和5年11月23日

東京都立大森高等学校

第二十四代校長 池田 美穂